

令和7年度 学校評価シート①

八峰町立峰浜小学校

R8年3月2日(月) 報告

評価項目	学習指導
------	------

重点目標	児童の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、峰小授業スタイルの継承・発展に努めることを通して、授業力向上を図る。	P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・峰小授業スタイルを全校共通の型として意識して取り組むことが、教師のキャリア間の指導技術等の差の解消につながっている。 ・県学習状況調査の結果では、現5・6年生の全学年、全教科が県平均を上回り、学習の定着状況はととても良好である。 ・児童の主体的・対話的で深い学びの実現につながるように、峰小授業スタイルを発展させていく必要がある。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○児童一人一人の可能性を伸ばす基礎となる学力を身に付けるために、峰小授業スタイルの授業実践を積み重ね、校内研修の場を設定して、峰小授業スタイルの改善に向けた協働研究に取り組む。 ○ICT機器を活用したり、新しい指導方法を取り入れたりするなどして、「楽しく、分かる」授業実践に努める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○「聴いて 考えて つなげる」学び合い。 ○ICTの可能性を広げる授業づくり。 ○学びを深める教師のコーディネート力。 ○探究心をもち、学び続ける教師を支える校内協働研究体制の構築。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○峰小授業スタイルの発展を合言葉に、「教師主導」から「児童主体」の授業づくりへの転換を目指して、協働研究に取り組んだ。 ○タブレット端末の活用(授業中、峰っ子タイム、家庭学習)、電子黒板を活用した学びを深める授業等、ICT活用の拡大を目指してきた。 ○深い学びに導く教師のコーディネート力の向上を目指して、学び合い重視型の授業づくりに取り組んできた。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○6年生の全国学力・学習状況調査では、国語、算数、理科共に全国及び秋田県平均を上回った。質問紙回答も前向きで良好であった。4・5年生の県学習状況調査も同様であった。 ○学び合いの場面、習熟度を高める補充学習・家庭学習などで、ICTを大いに活用できた。 ○保護者アンケートから家庭でも自ら学ぶ児童が微増(+2ポイント)した。 	
自己評価	<p>(評価)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童主体の授業づくりを全職員で模索しながら、本校における令和の日本型学校教育を探究した取組により、日々の授業に新鮮さが見られるようになった。児童の主体的に学ぼうとする姿勢の芽が育ってきている。 ○県学習状況調査等の各種調査結果が良好であり、ICTを積極的に活用した峰小授業スタイルの成果だと言える。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p style="text-align: center;">A</p> <p>児童主体の授業づくりに全職員で取り組んだり、タブレット端末や電子黒板などICT機器を積極的に活用したりするなど、具体的な取組がよくなされていた。各種調査結果も良好で、成果が出ている。今後は、アナログとデジタルのバランスも考慮しながら、書く力が低下しないように学習指導の工夫を図ってほしい。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童主体の授業づくりの更なる研究を積み重ね、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりに努めていきたい。 ・ICTの活用拡大を図ると同時に、書く力にも力点をおいた教育課程の工夫を図る。具体的には、情報リテラシーの育成をみねっ子タイムを中心に、書く力の定着を教科指導を中心にするなど、学年の発達の段階を踏まえながら、資質能力の育成を図っていきたい。 	A

令和7年度 学校評価シート②

八峰町立峰浜小学校

R8年3月2日(月) 報告

評価項目	生徒指導
------	------

重点目標	児童の主体性を育み、学校生活や児童会、学級活動の充実を図る。		P
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 児童数減少により、他者と進んで関わったり、多様な考えや価値観に触れたりする機会が少なくなっている。 相手の考えや立場を尊重しながら、自分の思いや考えを伝える力や、TPOに応じて適切に発言し行動できる力に課題が見られる。 ベテラン教師の優れた指導技術に支えられた個業体制から、チームなどの組織体制として整備していく必要がある。 		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 校訓「元気・根気・勇気」を意識的に関連付けた教育活動の継続・開発に努める。 児童の心を耕す道徳教育、元気な挨拶と返事を推進する。 学校生活や児童会、学級活動等で児童の主体性を生かす多様な活動、自己決定の場面、表現する機会を多く設定する。 		
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> 校訓「元気・根気・勇気」を関連付けながら、児童の主体性を生かす多様な活動、自己決定の場面、表現する機会を多く設定した児童主体の集会活動・学級活動・児童会活動の充実。 心を耕す道徳科の授業づくりと挨拶運動の推進。 多様な人材と触れ合う活動、縦割り班活動の積極的活用。 各種調査（QU、児童アンケート）を活用した課題把握と早期対応。 		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 6年生の自発的・自治的な活動を奨励し「4本松プロジェクト」を立ち上げた。 「心を耕す」ため、校訓を全教育活動に根付かせる工夫に努めた。 毎朝の挨拶運動で明るく学校生活を過ごそうとする意識を高めた。 異学年交流が促進されるような、場の提供の確保に努めた。 各種調査結果を基に職員全員で対応を検討する研修会を設定した。 		D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 校訓キャラクター、4つ目の校訓の誕生、児童のボランティア意識の高揚など「4本松プロジェクト」の成果が見られた。 全校集会での児童発表（ダンス、柔道、ビブリオバトル等）や校訓を浸透させる学校報等の啓蒙活動などによりチャレンジ精神が芽生え、児童アンケート(+8ポイント)で意識の変容が見られた。 		
自己評価	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> 校訓キャラクターや4つ目の校訓の誕生など、児童が主体的に学校生活を改善していこうとする仕掛けが効果的になされ、成果を上げた。 児童アンケートから、前向きな姿勢で、チャレンジしようとする風土が芽生えつつある。 不登校傾向の児童に対して、学校・家庭・関係機関が連携したことで、不登校児童ゼロとなり一定の効果があった。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>			
学校関係者評価と意見	A	児童主体の4本松プロジェクトや全校集会での児童発表などの具体的な取組が十分になされ、目標を達成することができた。不登校傾向のある児童にも改善が見られ、今年度の取組は評価できる。少子化に伴い、一桁台の児童数の学級、男女比の偏りのある学級などに対応した生徒指導の在り方について、今後配慮していく必要がある。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「4本松プロジェクト」を児童会活動の中核とし、児童の自発的・自治的な力を発揮する活動として更に発展させていきたい。 全校集会での児童発表を継続するとともに、児童が活躍できる場を更に拡充し、児童の主体性、チャレンジ精神を伸ばしていきたい。 不登校の未然防止に努めるとともに、不登校傾向児童対応として、学校・家庭・関係機関との連携を強化し、改善を図っていきたい。 異学年・八森小・地域人材との交流で、児童の心を耕していきたい。 		A

令和7年度 学校評価シート③

八峰町立峰浜小学校

R8年3月2日(月) 報告

評価項目	ふるさとキャリア
------	----------

重点目標	「まちに学び、まちを思い、夢を育む」ふるさとに根ざしたキャリア教育を充実させる。	D
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が年々減少している。地域素材・人材の豊かさに気付き、自らや地域の可能性と将来を思う教育活動が期待されている。 ・コミュニティ・スクールの機能や充実したICT環境の強みを生かしたふるさと教育・キャリア教育の工夫が求められている。 	
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年でふるさと教育・キャリア教育を意図的・計画的に行う。 ○地域素材・人材を効果的に活用し、体験的で多様な学習を展開して、ふるさとのよさを感じ取り、地域の将来を考える意識を高める。 	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ○地域(人・もの・こと)と触れ合い、地域のよさを実感する体験的な活動の充実。 ○地域を元気にする活動(特産品等の情報発信)の推進。 ○地域貢献を通じた生き方を探求する場の設定(リフレクション)。 ○「俳句の学校」の伝統を継承し、俳句づくりを通して地域のよさや児童の優れた感性を様々な学習活動と関連付けて情報発信する。 ○多様な活動の成果や課題を蓄積し、地域や保護者とも共有する。 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○旧岩子・埴川・水沢小学校当時のよさを生かし、保護者、地域との新たな関係を構築し、峰浜地区らしい教育活動に整えることを目指した。 ○1年：サツマイモづくり(幼保小連携、JA女性部)、2年：ヒラメ稚魚放流(峰浜漁協)・そば栽培(水沢保全会)、3年：峰浜梨(笠原果樹園)、4年：アユ放流(岩子桜の里)・ラベンダー(町観光協会)・カミツレ(町農林水産課)、5年：米栽培(小小連携、JA青年部)、6年：椎茸栽培(JA青年部)で、地域素材・人材を効果的に活用した。 ○4年・サシユ、5年・みねっこ米、6年・椎茸を「ふるさと学習Day」で販売し、その収益金を児童に還元する仕組みを構築した。 ○年間を通じた俳句教室、保護者と協働制作の記念俳句集、高峰山で親子で一句を実施した。 	D
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートで、ふるさと教育に関わる活動を肯定的に評価した割合が100%であった。保護者参加型の取組、Youtubeによる周知活動はもちろん、峰浜地区らしい活動を再構築した成果と捉えている。 ○ふるさと先生(長泉寺柳川住職)の指導を受け、全国的な俳句コンクールなど各種大会で上位入賞を果たした。 ●児童アンケートではふるさと教育への関心が前年度比-3ポイントであった。体験活動に参加できなかった児童への対応に課題が残った。 	
自己評価	<p>(評価) B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存の体験活動に新企画を取り入れたことで、教育活動がリフレッシュされた。児童・保護者に充実感が見られ、地域の方からは、本校教育活動を好意的に捉えている声が多く見られ、今年度の取組の成果と捉えている。 ●職員には新事業による多忙感の声があり、新教育課程で柔軟に対応できるような仕組みを構築し、改善を図りたい。 	C
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
学校関係者評価と意見	<p>A</p> <p>俳句学校賞受賞など、具体的な取組については、保護者の肯定的評価が100%であり評価できる。Youtube配信は続けてほしい。新規事業も好意的に捉えられており、成果を上げている。先生方の多忙感や活動に参加できなかった児童については、今後の課題としてできることから取り組んでほしい。</p>	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「俳句の学校」としての取組を継続・発展していきたい。 ・地域素材・地域人材の積極的な活用を通して、地域に根ざしたキャリア教育の充実を図っていきたい。 ・Youtube限定配信などで、児童の豊かな学びを発信し、教育活動の啓蒙を図っていきたい。 ・教員の多忙感の改善のために、教育課程の改善を図りたい。 	A